



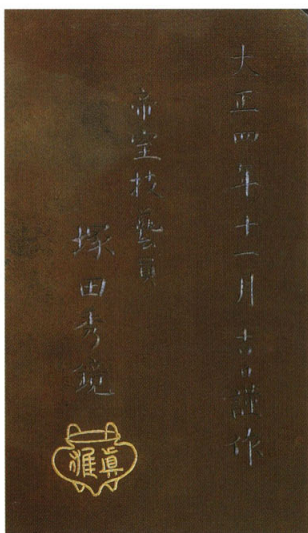
31 塚田秀鏡《双鶴置物》一点

大正四年(一九一五)
銀・四分一・赤銅・銅/片切彫ほか
鶴(大) 一九・二×四九・五×八二・八
鶴(小) 一七・〇×四七・五×五一・七

洲浜形の塗台に添景となる三つの岩と、寄り添う番の鶴を据えた置物。鶴は置物作品としては大型で、羽の配色や鱗状の足の表現など、細部にも写実を徹底して、明治期工芸の写実主義を色濃く残す作品である。本作を収めた箱には、塚田秀鏡とともに鍛金家・黒川義勝(一八六七〜一九四九)の箱書があり、鶴の体軀の概形は黒川によつて鍛造で製作されたことがわかる。

平安時代の王朝貴族の間で流行した、洲浜形や磯形に自然の景物を造作する飾り物「風流」があり、ここでは鶴を組み合わせることも珍しくなく、本作も遠くその伝統を引き継いでいる。

本作は大正四年十一月の御大礼の際、大正天皇へ皇太子から贈られたものである。大正四年に東京美術学校へ東宮職から製作が依頼された品で、『美術新報』第十五巻第一号(大正四年十一月)によれば、これを受けて同校長・正木直彦が塚田に製作を依頼したという。現存が確認されている塚田の作品のなかでは、このような大型の作品は珍しく、また、塚田が大正二年の帝室技芸員任命後に製作した貴重な作例である。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections